

第1回

2023年7月1日(土)

令和5年度 特別企画  
事前勉強会

午前\_本願寺八幡別院 参加者16名

午後\_ウォーターハウス記念館(内部見学) 参加者13名

ヴォーリス建築

## ■本願寺八幡別院 (浄土真宗本願寺派) 滋賀県近江八幡市北元町 39-1

### 八幡別院の沿革

地元・近江八幡で「御坊さん」と親しまれている本願寺八幡別院は、1558(永禄元)年に本願寺第11代顕如上人が江州蒲生野(現東近江市・日野町あたり)に創建された念仏の道場、金台寺を前身としています。その後、本願寺と織田信長の11年にわたる戦い(石山合戦)が終わり、1580(天正8)年に和睦のしるしとして、織田信長より寺地が寄進され、安土城下へ移築されました。さらに本能寺の変により織田信長が倒れた後、天下人となった豊臣秀吉の甥である豊臣秀次が八幡山に城を築き、城下町を整備すると、近江門徒は人家が離散し寂れた安土から八幡山城下町に金台寺を移すことを本山に願い出ました。この趣が秀次に伝えられると、1592(文禄元)年に寺地6町の寄進を受け現在の地

現在の本堂は1716(享保元)年、表門は1767(明和4)年、裏門は1782(天明2)年、鐘楼は1825(文政8)年にそれぞれ建立され、いずれも滋賀県有形文化財の指定を受けています。別院周囲には堀が廻らされ、城郭のような風情を残しています。

近年は滋賀教区・本願寺八幡別院修復総合計画に基づき、教区会館を新設し、続いて裏門・庫裏・表門・鐘楼・本堂と順次修復工事を行い、2004(平成16)年5月に落慶法要を営みました。

(パンフレットより)

当日は、併設する滋賀教区教務所の職員の方にお話を伺いました。

全国には仏教系寺院が約77,000あり、滋賀県には約3,200あること。数では全国都道府県のうち滋賀県は4位。人口比率でいうと、1位であることなどを教えていただきました。(ちなみに寺院数が一番多いのは愛知県で、断トツだそうです。)

そのうち滋賀県内の浄土真宗西本願寺派の寺院はおよそ600で、直属寺院(西本願寺のご門主が住職を務める寺院)は八幡別院を含む下記の5つだということ。



- ・近松別院(大津市)
- ・赤野井別院(守山市)
- ・八幡別院(近江八幡市)
- ・八日市教堂(東近江市)
- ・長浜別院(長浜市)

## 珍しい欄間彫刻

本堂にある欄間彫刻のひとつに「老婆に母乳を与える女性」がデザインされたものがあります。研究者の話では中国の教えからきたものだとのことでしたので、調べてみましたら中国の親孝行の話を集めた「二十四孝」の中のひとつ『唐夫人』だと分かりました。

\*唐夫人の姑には歯がなく食べ物を噛めなかったので、夫人は自分の母乳を姑にあげて孝行した。姑が死の床で「夫人の孝行を真似れば家は必ず繁盛する」と言い、その通りになった、というエピソード。

全国の寺院にもこの「二十四孝」を題材にした欄間彫刻があること、また浮世絵なども確認できたので、流行したのかもかもしれません。

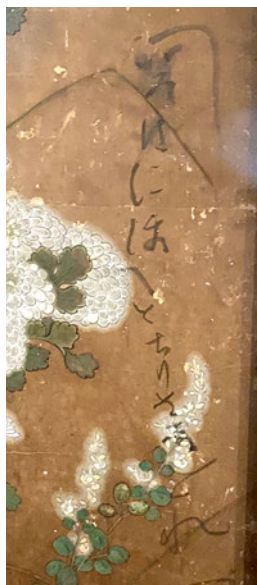


天井絵

## 当時のまま残されている天井絵と襖絵

天井絵は修復されていないにもかかわらず、美しい色が残っていました。

襖絵の左部分には「いろはにほへとちりぬるを」の文字が見えます。これは、絵柄の一部ではなく、その昔、子どもが書いた落書きだということです。この達筆な落書きも含め歴史が感じられ、ほほえましいですね。



落書きが残されている襖絵



太鼓

## 所蔵する最古のもの

約 600 年前の「太鼓」で、本堂へと続く裏通路に吊るされて保存されているのを見せていただきました。

## 朝鮮通信使との関わり

戦国の世が終わり徳川幕府による平和な時代が訪れると、隣国・李氏朝鮮は善隣友好のために、「朝鮮通信使」と呼ばれる使節団の訪日を再開しました。一行は毎回 400 人前後の大行列で、行程は漢城（ソウル）から釜山へ出て海路を取り大阪湾へ。淀から上陸して中山道、東海道経由で江戸に向かいました。

徳川将軍の交代時に新将軍祝賀などの名目で、慶長 12 年（1607）年の第 1 回から、約 200 年間に 12 回訪れました。

近江八幡は昼食休憩の場所に指定されており、本願寺八幡別院（当時は金台寺）は正使など最上級の休憩場所でした。

そして、まさにその休憩場所であった書院に案内していただきました。上段の間には李南岡（李邦彦）の書や、昼食に使われた膳が展示されていました。

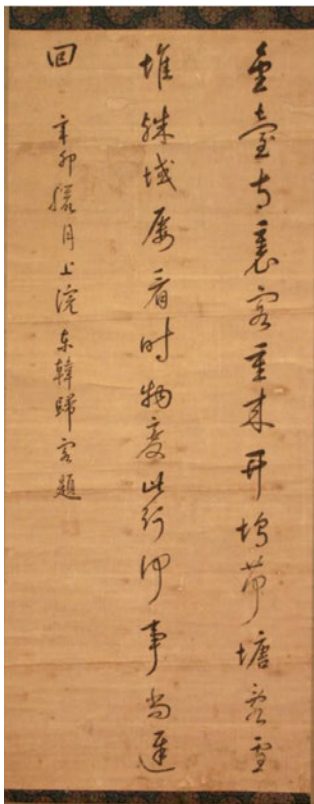
現在も法要などの際に西本願寺の御門主だけが着替えや待機場所に使われる特別な場所です。

通信使の道中記録のひとつ『奉使日本時間見録』には、八幡別院に関する一文が次のように記されています。

「昼食の館に入っていったが、すなわち八幡山の金台寺である。壮麗ではないが、またおのずと瀟洒であり配置されたすべての諸具が森山（守山）より優れていた。」



## 李南岡（李邦彦）詩書



第 8 次通信使来訪（正徳元年・1711）の帰国時、三使のうちの従事官である李南岡（り・なんこう）＝李邦彦（い・パンウォン）から七言絶句の詩が贈られています。市指定文化財であり、2017 年 10 月にはユネスコの世界の記憶（世界記憶遺産）に選定されました。

以前は本物の書が掛けられていましたが、選定後は状態保全のため、レプリカが公開されています。

【翻刻】

金台寺裏客重来 / 竹塢荷塘乱雪堆 /  
殊域属看時物変 / 此行何事尚遅回

辛卯臘月上浣 東韓帰客題

【要約】

金台寺というところに再びやってきた。竹の茂っている筒井のある蓮の池に雪がうず高く積もっている。蓮の池に異国で時の移り変わりを何度も目にすることである。この旅はどうしてこのように帰りが遅くなるのであろうか。（望郷の歌）



歌に詠まれている「蓮の池」。書院の上段の間から眺めることができます。

# ■ウォーターハウス記念館

(ヴォーリス建築)

滋賀県近江八幡市池田町5丁目21

公式ホームページ

<https://waterhouse-kinenkan.com/>



午後からは、徒歩で池田町洋風住宅街(ヴォーリス建築群)にあるウォーターハウス記念館へ移動しました。ヴォーリス記念館館長 藪 秀実氏の説明を聞きながら、1階と2階を見学しました。

ウォーターハウス記念館は、1913年にヴォーリス合名会社により建築され、当時、近江八幡市でW.M.ヴォーリスと共に基督教の伝道活動をしていた米国人のP.B.ウォーターハウスの一家が約6年間、社宅として居住した住宅です。

傷みが目立ち始めたため、全面改修を経て『ウォーターハウス記念館』と名称も新たにされました。現在は、特別公開を除き一般公開はされていません。ゲストハウスとして一日一組の貸し切り利用や、「近江家政塾」のレシピを再現したランチを含む利用が可能です。

内部の写真は掲載に許可が必要でしたので、割愛します。

ここでは、実際に見学をし、説明を聞いた感想等を書き留めておきます。

藪氏のお話で、ヴォーリス建築の特徴として、建築スタイル的なものはさておき『窓が多い』とおっしゃっていたことが印象的でした。階段にステンドグラスの窓を作ったり、採光、空気の流れなどを重視し、居心地のよい空間を大切にしていたのでは、とのことでした。

実際に、ヴォーリスが家を作るときには ①台所 ②寝室 ③こども部屋 の順に考えたそうです。それは、その家で過ごす時間が長いところを快適にということだと考えられています。女中を置く場合には女中部屋も重視したそうです。

同時期に作られた「旧伊庭家住宅」の台所も、家の中で一番居心地の良い場所だそうです。

## 1階

2部屋がパーテーションで区切れるようになっているダイニングルームの奥には、2面が大きな窓に囲まれたとても明るいサンルームがあります。

ダイニングからキッチンへ続く扉は両開きになっており、手にお鍋などを持っていても、体で押してどちらにも行くことができる便利な仕様です。また、2部屋を区切るパーテーションは、ガラスの入った二つ折れの木製の扉が左右に1つずつあるのですが、軽い力で動かすことができ、驚きました。パーテーションで区切ったとしても、廊下からそれぞれの部屋にアクセスでき、少人数、大人数でも快適にもてなすことができます。

この家に招待されると、アメリカのスタイル、クリスチャンの生活を感じることができるだけでなく、住宅の機能性も体感できる「住宅展示場」としての意味合いを持っていたと言われています。

建築家としての発注へとつながる良い仕組みだと思いました。

## 2階

4部屋ありますが、真ん中にあたる部屋にはなんと、ドアが5枚ありました!隣接する3つの部屋につながるドアが3つ、廊下に出るドアが1つ、大きな収納庫のドアが1つ。

ちょっとびっくりしますが、部屋同士の行き来を便利にしたり、また、別グループが宿泊する際にはお互いの部屋を通らず廊下に出られたり(一番奥の部屋は除く)、細やかな配慮だと感じられます。窓から八幡山が見える部屋もありました。

3階は見学できませんが、3部屋あるそうです。

写真や映像で見るだけでなく、実際にその場に身を置くと、生活する場としての住宅の魅力が感じられ、貴重な体験となりました。

# ■吉田悦蔵邸（ヴォーリス建築） 滋賀県近江八幡市池田町 5 丁目 21-3

公式ホームページ <https://www.yoshidatei1913.com/>

吉田悦蔵は、ヴォーリスの滋賀県県立八幡商業学校英語教師時代の生徒の一人で、ヴォーリスに感化され、その後の「近江兄弟社」設立に大きく貢献し、あらゆる面でヴォーリスの片腕となりました。

その吉田悦蔵の住まいとして1913年に建てられた洋館が、今も池田町にあります。そして、4代に渡り、現在も住宅として利用されています。

最近では、不定期にイベントを開催されたり、予約制で限定ツアー（見学会）をされています。

今回は残念ながら都合がつかず、内部見学はかないませんでした。



吉田悦蔵邸



吉田悦蔵邸(左)とウォーターハウス記念館(右)の前で集合写真